

中国風険消息<中国関連リスク情報>

<2014 No. 2>

「中国風険消息<中国関連リスク情報>」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌です。中国における種々のリスク（火災等の事故、自然災害、法令違反、情報漏えい、労務リスク等）について、時節に応じた話題や、社会の関心が高いトピックを取り上げて解説しています。

中国における最新治安動向 ～安全な滞在のために～

1. はじめに

日中関係は政治的対立の影響で冷え込みが長引いているものの、経済界や自治体間の交流は活発化しており、好転の兆しが見えつつある。また最近の中国は成長社会から成熟社会への移行に向けて舵を切り始めており、持続的かつ安定的な成長が実現すれば、グローバル経済における中国の存在感も益々高まってくるものと思われる。

こうした認識のもと、今後も多くの日本企業が多数の駐在員や出張者を中国に派遣するものと思われるが、最近では通常の国内転勤と同じ扱いで、予備知識が薄いままに駐在を命じられるケースも目立っている。同じ東アジア圏に属するとはいいながら、日中間では政治制度、法律・慣習、価値観などの隔たりは依然として大きく、駐在員や出張者が思わぬトラブルに巻き込まれるケースは後を絶たない。

本稿では、中国における最新の治安動向をご紹介します上で、出張者や駐在員が安全に滞在するためのポイントを解説する。特に今年着任した新任駐在員とその家族、あるいは渡中経験の少ない出張者の方々には是非ご一読いただきたい。

2. 中国治安状況の概況

(1) 在留邦人の状況

外務省（海外在留邦人数統計：平成25年版）によれば、現在中国には約15万人の邦人が在留している。国別では米国に次ぐ第2位で、第3位のオーストラリアの2倍近い数となっている。また中国内における都市別の長期滞在者数（在留総数から永住者を差し引いた数）でみると、上海、香港、北京、蘇州、広州の順であり、上海の約5.7万人は世界における都市別で第1位（2位はロサンゼルススの約4.3万人）である。

ちなみに在外公館別の日系企業数では、上海総領事館の所管数がダントツの世界1位であり、2位青島、3位北京、4位広州と上位4つを中国が独占している。

これらのデータからも、日中間の民間交流がいかに盛んであるかがお分かりいただけると思う。

<表1> 海外在留邦人数上位国

順位	国名	人数
1	米国	410,973
2	中国	150,399
3	オーストラリア	78,664
4	英国	65,070
5	カナダ	61,854

<表2> 中国内長期滞在者数

順位	都市名	人数
1	上海	57,238
7	香港	21,289
10	北京	11,521
11	蘇州	10,699
19	広州	6,995

<表3> 在外公館別日系企業数

順位	都市名	企業数
1	上海総領事館	21,103
2	青島総領事館	11,521
3	中国大使館(北京)	10,699
4	広州総領事館	6,995
5	アトランタ総領事館	1,460

出典：外務省海外在留邦人数統計（平成25年版）
順位は世界ランク、数字はいずれも2012年10月1日現在

(2) 中国における犯罪発生状況

中国における犯罪発生状況は<表4>の通りであり、参考までに日本の犯罪統計との比較の形で整理してみた。

人口比で比較すれば、総件数ベースでは日本よりも中国の方が犯罪発生確率が低いということになる。統計の取り方や分析方法の相違などでデータを単純比較することはできないと思われるが、総じていえば日本との比較において、中国の方が生命身体への危険がはるかに大きいという状況ではないため、日常生活を送る上で、過度の心配は不要といえる。

	総件数	殺人	強盗	傷害	窃盗	詐欺	総人口
中国	6,551	11.3	180	164	4,285	556	13.6億人
日本	2,015	1.0	4	28	1,040	35	1.27億人

出典: 中国国家统计局CHINA STATISTICAL YEARBOOK 2013
法務省平成25年版犯罪白書

3. 特に注意すべき最近の事例・手口

マクロ面からみた中国における治安概況は以上の通りであるが、ミクロな視点からみると、日常生活における危険性は日本よりも中国の方が明らかに大きいというのが、大多数の駐在員の肌感覚であろう。

具体的には、殺人・強盗といった凶悪犯罪に遭遇する危険性は相対的に低いものの、交通事故、恐喝、そして窃盗・詐欺などの金銭被害に遭遇する可能性は昔も今も圧倒的に高く、邦人が巻き込まれた事例も枚挙にいとまがない。また各種の手口も年々手の込んだものになりつつある。

以下では、弊社が取材した実際の被害事例およびヒヤリハット事例の中から特に注意を要するケースを中心にご紹介するとともに、事例を踏まえた対策のポイントを解説する。

(1) 交通事故

<事例>

場所	上海
概要	歩道を歩行中、後ろから来た電動スクーター・電動自転車に危うくぶつけられそうになった。

場所	上海
概要	会社から帰宅途中、渡ろうとした交差点で歩行者用青信号が点滅し始めたので、急いで渡ろうと横断歩道に差し掛かったところ、左から来た車に危うく轢かれそうになった。

場所	蘇州～無錫間
概要	営業車で移動中、PM2.5の値が急上昇したことで、視界が5m程度まで落ち込んだ。高速道路を走行中であったが、急に通行封鎖となる。特別な説明もないままに、1時間近く5km/hぐらいで走行するも、道端では勝手に車を止めて下りるなど人が溢れかえる状況となる。その後5kmぐらい先で人身事故発生を目撃した。

中国滞在中、最も気を付けるべきリスクは交通事故である。モータリゼーションの急激な発展に伴い、中国でも交通事故が多発している。統計上(2012年度)では、自動車保有台数(二輪車を除く)に対する交通事故死亡者数(二輪車単独事故を除く)の割合は、日本が0.24人/1万台であるのに対し、中国はおよそ3.5人/1万台と10倍以上の乖離がみられる。

さらに中国では、「赤信号でも車の右折が可能である」、「音の出ない電動スクーターが平然と歩道を走行する」、「交差点で歩行者が横断歩道を歩いていても右左折の車が交差点に突っ込んでくる」など、交通法規や交通マナーが日本と大きく異なるため、乗車中のみならず歩行中も常に注意を払う必要がある。

その他にも「路線バスに乗車していたところ、運転手から『後部から発火したので全員下車』を突然、指示された」、「タクシーに乗車後、走行中にドアに寄り掛かったら勝手にドアが開いた」など、車両の整備不良が原因と思われるトラブルも発生している。

<対策>

- ・車優先社会であること、交通ルールが日本とは違うことをまずは理解して受け入れる。
- ・歩道を歩行中は常に一定の側（レーン）を歩く。歩行レーンを変える場合は背後の電動スクーターに気をつける。青信号の横断歩道を渡る際は、まずは左方を確認してから渡る。
- ・営業車やタクシーに乗車中はシートベルトを必ず着用する。路線バス乗車中はできるだけ降車口に近いところに位置する。



歩道を平然と走行する電動スクーター



直進信号が赤でも右折は可能

(2) 盗難・詐欺

<事例>

場所	上海
概要	ファストフードチェーンで夕食を取っている時に、見知らぬ男性に上海語で話し掛けられ、何を話されているのか分からなかったが、その後、バックを確認した所、チャックが開けられiPhoneが盗られていた。話し掛けられたタイミングで別の人に盗まれたに相違無いと思い、その後警察に駆け込むも、後の祭りであった。

場所	無錫～上海間
概要	高速鉄道で移動中に、携帯を抱いて寝ていたところ、起きたら携帯が盗まれていた。

場所	北京
概要	自身の携帯に予約済のフライトがキャンセルになった旨の連絡とフライト予約に必要な電話番号がショートメッセージに残されていた。当該番号へ電話をしたところ、「航空会社の自動アナウンス」へ繋がり、プッシュ番号方式で予約手続きを進めたが、一向に予約できず途中で不審に思い電話を切った。後日、高額な請求をされ、電話料金を請求する詐欺被害にあった事に気付いた。

中国で交通事故と並んで注意すべきリスクは、盗難・詐欺などの金銭被害である。特にスリ被害は大都市部で増加傾向にあり、上海では 2014 年に入ってスリや置き引きの検挙件数が前年比で倍増しているとの報道もなされている。

詐欺に関しては、日本と同様に携帯電話やスマートフォンを使った振り込め詐欺が多発している。電話による接触であれば明らかに怪しいと判断できるが、上述の事例のように、①心あたりのある会社からショートメッセージなどで電話番号が残される。②折り返し電話を掛けると、自動アナウンスに繋がる。③そのまま音声に従って手続きを進めると実は詐欺であった、というケースが目立つ。航空会社やネットショップ等から購入履歴や申込履歴等の個人情報が出ているとの話もあるが、いずれにせよ過去に実際に行った取引を行った実在の会社を名乗ってコンタクトをしてくるため、つい何の疑いもなく手続きを進めてしまいがちとなるのがやっかいである。

<対策>

- ・外出時は多額の現金を持ち歩かない。またパスポート、現金、キャッシュカードなどの貴重品は分散して携帯することを心がける。
- ・繁華街や地下鉄・バスなど不特定多数の人が集まる施設・設備を利用する際は、常に手荷物に細心の注意を払う。またこうした場所で見知らぬ人間から声をかけられても相手にしない。
- ・心あたりのある会社からショートメッセージに電話番号が残されていた場合は、その番号に折り返し電話をせず、カスタマーセンターなどの番号に電話し、メッセージの真偽を確認する。またネットショッピングを利用する場合は、詐欺被害に遭った損害を補償する保険（アリペイなどが提供）に予め加入しておく。

(3) ニセ札被害

<事例>

場所	上海
概要	夜間、タクシーに乗りし、現金で支払うため、100円を出したら、「偽札だから受け取れない。他の100円札に交換してくれ」と要求されること6回。翌日、コンビニで支払いの際に偽札だと指摘され、タクシーで交換の度に偽札にすり替えられていたことに気づいた。被害金額は600円。

場所	北京
概要	お金を下ろそうと某大手銀行のATMから1500円を引き出したところ、全てニセモノの100円札が15枚出て来た。

日本ではほとんど聞かれなくなったが、中国では今でもニセ札による被害が頻発している。主に発生するのがタクシー降車の際の精算時で、事例にあるような「これはニセ札だから受け取れない」以外にも「お札の角が破れている」などと難癖をつけては、手で真札とニセ札を次々とすり替える手口である。また、上述の事例のように信頼あるはずの大手銀行ATMからニセ札が出てくるなど日本では考えられない事態も珍しくない。

ニセ札の主な特徴は「番号が全て同じ」、「透かしが不鮮明」、「手触りがツルツルしている」などであるが、そもそもニセ札という概念に乏しい日本人にはその場で即座に判断するのが難しい面もある。

なお、中国のお店では必ずといっていいほど100円札の入念なチェックが行われるため、手元にあるニセ札を興味本位で使うと警察に通報され、最悪の場合、行政処罰（15日の拘留および1万円以下の罰金）を課される恐れがある。ニセ札と認識しつつ使用することは絶対に避けるべきである。

<対策>

- ・長期滞在の場合は、タクシー精算は現金ではなく交通カードを使うようにする。ただし交通カードそのものをすり替える悪質なドライバーも存在するため、専用ケースに入れるか、カードにシールを貼るなどの自衛策を講じる。100円札の現金で精算する場合は、下2～3ケタの番号をドライバーに示してから渡すようにする。領収書は必ず受け取る。
- ・銀行ATMを利用する場合は、引出しのみ可能なATMを極力利用する。
- ・万が一ニセ札被害にあった場合は、タクシーの場合は領収書記載のタクシー会社または各地方府のホットラインへ通報する。ATMの場合はその場を離れず、ATMに記載のある連絡番号へ通報する。



被害に遭った際のニセ札。お札の番号が全て同じになっている。

(4) その他

<事例>

場所	上海
概要	夜間に会社から自宅へ徒歩で帰宅途中、オフィス街ながら夜間であり人通りの少ない駐車場を横切ろうとしたところ、突然当該駐車場の植え込みから5匹の野犬が横切り自分の横をすり抜けて行った。複数の野犬が群れをなして生活している模様で、今回は危害を加えられることは無かったが、一歩間違えると危ないと強く感じた。

場所	北京
概要	会社からの帰宅途中、通り慣れた道で電話をしながら歩いていたところ、マンホールの蓋が開いたままであり、何の囲いもされていなかった。手前で石につまずいたことが幸いし、蓋の無い状態に気付いたが、そのまま気付かず歩いていたら、落ちて怪我をしている所であった。

場所	北京
概要	以前居住していた社宅の中庭に工事用の資材が無造作に積み上げられており、それが落下し、右手を骨折した。手の骨折で済んだが、そばにいた外国人入居者は顔を直撃し、重傷を負った。

中国では大都市であってもオフィス街と下町が混在しているエリアが少なくなく、野犬などに遭遇する可能性があるため、夜間に徒歩で人通りの少ない場所には極力立ち入らないことが望ましい。長期間中国に滞在する予定であれば、出国前に狂犬病の予防接種を行っておくことをお勧めする。

また、日本とは異なって工事現場の管理がずさんであり、突起物等に保護シートがかけられていなかったり、マンホールの蓋が開いたまま何の注意表示もなされていないケースも散見される。工事現場の付近は避けて通るとともに、歩行中は携帯電話やスマートフォンを使った「ながら歩き」は行わないようにすべきである。

4. おわりに

各種の事例からみえてくるのは、「油断していた」「甘くみていた」など、心の中にちょっとしたスキが出来た時に事件・事故に巻き込まれるということであり、一歩間違えれば生命の危機に直面しかねないケースも存在する。

中国に滞在する日本人駐在員や出張者は中国ビジネスの中核を担う役割を担っているため、万が一トラブルに巻き込まれた場合、自分自身のみならず自社の中国ビジネスの遂行にも大きな支障が出ることは必至である。こうした点を自覚の上、「ここはあくまでも外国であり、自分自身は外国人である」ことを肝に銘じつつ、正確な情報と必要な知識を身に付けた上で、自分の身は自分で守ることをまずは励行いただければと思う。本稿がその一助となれば幸いである。

以上

執筆：インターリスク上海 総経理 伊納 正宏

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。中国進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問い合わせ先、または、お近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 ㈱インターリスク総研 総合企画部 国際業務チーム

TEL.03-5296-8920 <http://www.irric.co.jp/>

瑛得管理諮詢（上海）は、中国 上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）

上海市浦東新区陸家嘴環路 1000 号 恒生銀行大廈 14 楼 23 室

TEL:+86-(0)21-6841-0611（代表）

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。

また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright 株式会社インターリスク総研 2014